

秋の星空散歩

秋のすんだ夜空の下で美しい星たちと会いましょう。
当日は、アンドロメダ銀河・ペルセウス座の二重星団・ペガサス座の球状星団などの星たちをめくります。

開催日時 11月2日(土)
午後7時から9時まで
講師 牛山 俊男
定員 20名
開催場所 長坂町 秋田小学校校庭
持ちもの 懐中電灯、寒くない格好で(防寒着)
雨や曇りの場合には中止



カブトムシの森づくり

カブトムシは里山の「王様」といわれるほど里山を代表する昆虫です。里山がなくなればカブトムシもいなくなってしまう。里山の落葉かきをしながらカブトムシの森を作りましょう。
集めた落ち葉で焼きいもするよ。

開催日時 11月24日(日)
午前10時から12時まで
定員 30名
開催場所 オオムラサキ自然公園
持ちもの 防寒着、作業のできる服装
主催 長坂あぜ道の会
小雨決行

棚田の収穫祭

棚田でアイガモ農法により、りっぱに育った古代米の稲刈りをします。収穫のお祝いにお餅を試食します。

開催日時 11月10日(日)
午前10時から12時まで
協力 長坂町名水アイガモ米生産組合の皆さん
定員 30名
開催場所 日野春農村公園(オオムラサキ自然公園隣り)
持ちもの 作業のできる服装
主催 長坂あぜ道の会
雨天中止

イベント情報

風船細工教室

風船でいろいろな色をした蝶などの昆虫を作ってみよう。

開催期間 11月17日(日)
午前10時から12時まで
講師 勝野 好夫(コメディアン)
定員 30名
開催場所 森林科学館
入館料 大人400円・小中学生200円
(町内中学生以下無料)

森の工作教室

鉛筆立て、生きもの、おもちゃなど自分で考えながら自然木を使って作ってみよう。

教室が開いている日と時間
11月17日(日)・23日(土)
午前10時から12時まで
講師 田中 旻
開催場所 森林科学館
服装 作業のできる服装
入館料 大人400円・小中学生200円
(町内中学生以下無料)

オオムラサキ越冬幼虫観察会

オオムラサキがエノキの根元で越冬している様子や数を調べます。来年の夏、優雅に舞うオオムラサキの赤ちゃんを観察してみよう。

開催日時 12月1日(日)
午前10時から12時まで
開催場所 オオムラサキセンター
定員 30名
服装 作業のできる服装

お問い合わせ・お申込は

〒408-0022
山梨県北巨摩郡長坂町塚川 2812 番地
長坂町オオムラサキセンター
TEL&Fax 0551-32-6648
URL <http://www.yatsu.gr.jp/ngs/oomurasaki/index.html>

オオムラサキ通信



発行：平成14年10月24日
編集：長坂町オオムラサキセンター
〒408-0022 山梨県北巨摩郡長坂町塚川 2812 番地
TEL&Fax 0551-32-6648

No.54

オオムラサキ博士になろう！

このコーナーでは、身近な自然のことや知っているようで知らない昆虫のことなどを紹介していきます。

森林の役割 その二 遺伝子の保存

先進国による熱帯林の伐採は、そこに暮らす多くの動植物を絶滅の危機にさらしています。そしてその先進国においても都市近郊では著しい森林伐採により多くの動植物を絶滅させています。そうした背景から、1992年にブラジルで生物多様性条約という条約が締結されました。これは、地球上の動植物をこれ

以上絶滅させないように作られたものです。なぜ、動植物が絶滅してはならないのか、今回は遺伝子資源という点から森林の役割について考えてみます。

私達の食糧や医療品は、実は多くの生き物から作られています。例えば、私達は誰でも毎朝、生卵や目玉焼きを食べてタンパク質を摂ることができます。これは、卵の値段が大変安いからです。なぜ卵がこんなに安くなったのか——実はこれはメキシコの一本の野草のおかげであったということを忘れてはなりません。卵が安いのは鶏が安いことで、鶏が安くなった最大の理由は鶏の餌が安くなったからです。ア

メリカでハイブリッドコーンというトウモロコシが鶏の餌として開発されました。ハイブリッドとは「異種

間雑種」という意味で、この場合はトウモロコシとメキシコの野草とを掛け合わせて作った雑種のことで

す。ハイブリッドコーンによるトウモロコシの収量は驚異的に増加しました。

しかし、いかにハイブリッドが優れているからといって、そればかりを栽培するわけにもいきません。

ある作物を同じ畑で続けて栽培(連作)すれば、病気や害虫の多発など障害が生じるからです。従って、

トウモロコシに限らず我々が食べている作物は全て品種改良が必要です。平均して十年に一回の品種改

良を続けていかなければ食糧を確保できないのです。これは食糧だけでなく、医薬品も同じで、解熱剤、鎮痛剤、抗アレルギー剤の多くは野生の草木、あるいは動物の体に含まれる成分から作られます。その時重

要なのは、森林あるいは草原に生えている草や木、動物なのです。
このように考えると野生の動植物は我々の将来世代の財産ともいえます。たかが森林や草原に生える野草といえど、いつどこで我々の役に立つかわかりません。そうした遺伝子が存在する森林を残さなければ、将来世代の食糧を確保できないということを私達ははっきりと認識する必要があります。

(文責/小林隆人)

エノキコーナー vol 18

自然とオオムラサキに親しむ会 原 和慶

ミズヒキ 水引 タデ科

ミズヒキは、最近では庭に植えて花を楽しんだりしている方もいる。花の姿が、かれんで茶花にふさわしい。林のふちなどに生える多年草、日当たりのよいところよりも、半日影のところに多い。花に

花弁はなく、花弁状の4個の萼片^{がくへん}がある。上にある3個の萼片は赤く、下側の1個は白い、このため花穂を上から見ると赤く、下から見ると白く見える。これを紅白の水引にたとえて水引の名がついたといわれる。赤色の萼片は果実が熟すころにも残って、長く秋の風情を楽しませる、美しい花である。又、バラ科のキンミズヒキは、長い花序^{かじょ}をタデ科のミズヒキに見立て、花が黄色いところから、その名がついた。



ミズヒキ

オオムラサキは今…

現在、びばりうむの中のオオムラサキの幼虫は4齢になりました(写真A)。この頃になると、エノキの葉も黄色くなり、落下するものが多くなるので、幼虫が葉ごと風によって飛ばされないか心配です。しかし、その心配はご無用、幼虫たちは、葉が風で飛ばされないように工夫を凝らしています。通常、エノキなど広葉樹の葉は、葉柄(ようへい)とよばれる柄によって小枝についています。幼虫はこの時期になると葉柄と小枝の部分にたくさんの糸を吐きつけ、葉が飛ばされないようにしているのです(写真B)。幼虫がついている葉を、ためしに軽くひっぱってみましょう。葉柄は小枝からとれてしまいますが、糸があるから、ほら、大丈夫(写真C)！冬になったら葉が落ちたエノキの木をみてみましょう。もし、秋までその木にオオムラサキの幼虫がいたならば、幼虫がついていた葉は下に落ちずに、幼虫が吐いた糸によって小枝にぶらさがっています。冬にオオムラサキの越冬幼虫を探す名人は、この習性を利用します。つまり、数あるエノキの中から、小枝にぶら下っている葉が見られる木を探し、その木の下で越冬幼虫を探すと、幼虫は100%見つかるのです。みなさんもためしてみてください。



写真A



写真B



写真C

N・B・A・20！

このコーナーでは、オオムラサキ自然公園の今(Now)のとおき(Best)の魅力(Attractiveness)を20連発で紹介していきます。(10月18日確認)

オオムラサキの幼虫は全て4齢幼虫になりました(写真A)。

オオムラサキの4齢幼虫は葉が風で飛ばされないよう、糸で葉を枝に固定しているよ(写真B)。

クヌギの木から樹液が出なくなりました。集まる虫もいなくなり、昆虫酒場も閉店です。

たくさん飛んでいたトンボの数もめっきり少なくなりました。

林床はどんぐりでいっぱい！クヌギ、コナラ、クリ…。

今年は木々の紅葉も遅いようです。まだ赤くなりません。

プランターで飼育中のツマグロヒョウモンの幼虫は冬越しの準備に入りました。長～い眠りにつましました。

アゲハ、キアゲハ、カラスアゲハの幼虫が蛹になりました。羽化は来年の春です。待遠しいですね。

花壇でせわしく飛んでいる青いシジミチョウがいます。近づいてみるとウラナシジミでした。

毎日秋晴れの良い天気が続きます。ハケ岳、南アルプス、茅ヶ岳の景色は素晴らしいです。

落葉の下でカブトムシの幼虫見つけた！現在、直径2センチ、これから丸々太っていきます。

コナラの冬芽でオオミドリシジミの卵を見つけた。このまま卵で冬を越します。

暖かい日は日だまりでルリタテハ、キタテハがひなたぼっこをしています。羽をいっぱい広げて光を浴びます。

びばりうむの池にメダカがいっぱい！今年の夏はたくさんの子がかえりました。

ユウガギク、ノコンギク…外では秋の菊が満開です。

公園に植えたコスモスも、今が花の見ごろです。

センター館内のへぼ(クロスズメバチ)の巣がいよいよ大きくなってきました。魚や糖蜜など良い餌を与えたせいです。

ヒメスズメバチ・オオスズメバチなど野外のスズメバチの巣も大きくなっています。警戒心が強くなって、襲ってくるので注意！

夏に種をまいたスミレがあっという間に大きくなりました。春には可憐な花を咲かせることでしょう。

セイタカアワダチソウの黄色の花が遠くから見ると目立ちます。この辺の草の中では一番遅くまで咲いているのかな。

ありがとうございました。

9月23日と10月10日の両日、日向紀郎さん、牛山正義さん、相吉静さん、菊原とし子さんの4名がボランティアでオオムラサキ自然公園の生垣をきれいに刈り込んでくれました。訪れるお客さんからも「きれいにあったね。」と好評です。

ご高齢にもかかわらず、早朝よりお茶も飲まず懸命に作業をする姿に頭が下がりました。本当に有り難うございました。

